

サロンあべの

サロンあべの NO.4
発行日 昭和61年10月18日
発行所 (サロンあべの) 運営委員会

需給一体の 語り合い

「サロンあべの」にはじめて参加した人、毎回来しみに待っている人。だんだんその輪は大きく広がっている。障害者と健全者が共にコミュニケーションを深めることも大切のひとつとして活動している。ハサロンのあべのレター今回の出会いのテーマは「コミュニケーションとボランティア」でお互いの悩みやボランティア活動の内容なども語り合い、地域での活動を考えてみたい。と昭和六十一年九月二日、十七人のメンバーが出会った。そこで、自己紹介をかねた参加者全員の手言葉(要旨)を掲げよう。

自己紹介(要旨)

- 小倉 俊一さん
当分の間は、障害者生活センターに所属して活動中。毎週土曜日に「語り合い」に参加している。二年前、友人の紹介で「あべの」を知り、参加することになった。最初は、ただただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。
- 松原 幸子さん
普通科高校卒業後、就職して勤務していたが、三年前に脳卒中を患い、左半身不遂になった。現在は、在宅療養中。ボランティア活動に興味を持ち、今年七月に「あべの」に参加した。最初は、ただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。
- 大島 功一さん
十一年前に、脳卒中を患い、左半身不遂になった。現在は、在宅療養中。ボランティア活動に興味を持ち、今年七月に「あべの」に参加した。最初は、ただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。
- 佐藤 幸子さん
家庭科高校卒業後、就職して勤務していたが、三年前に脳卒中を患い、左半身不遂になった。現在は、在宅療養中。ボランティア活動に興味を持ち、今年七月に「あべの」に参加した。最初は、ただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。
- 林 幸子さん
普通科高校卒業後、就職して勤務していたが、三年前に脳卒中を患い、左半身不遂になった。現在は、在宅療養中。ボランティア活動に興味を持ち、今年七月に「あべの」に参加した。最初は、ただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。
- 石田 幸子さん
普通科高校卒業後、就職して勤務していたが、三年前に脳卒中を患い、左半身不遂になった。現在は、在宅療養中。ボランティア活動に興味を持ち、今年七月に「あべの」に参加した。最初は、ただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。
- 中村 幸子さん
普通科高校卒業後、就職して勤務していたが、三年前に脳卒中を患い、左半身不遂になった。現在は、在宅療養中。ボランティア活動に興味を持ち、今年七月に「あべの」に参加した。最初は、ただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。
- 西田 幸子さん
普通科高校卒業後、就職して勤務していたが、三年前に脳卒中を患い、左半身不遂になった。現在は、在宅療養中。ボランティア活動に興味を持ち、今年七月に「あべの」に参加した。最初は、ただ話を聞いていたが、次第に自分も話せるようになった。特に、ボランティア活動の悩みや、地域での活動のアイデアなどについて、他のメンバーと話し合えるのが、とても楽しい。

PROFILING

手話通訳 旭 純子さん

旭さん 12月6日あけびにて
「サロンあべの」クリスマス会の日本、バングラデシュの手話通訳は、旭さんの活躍が、今年も大きな役割を果たした。旭さんは、手話通訳の経験が豊富で、ボランティア活動の経験も豊富である。旭さんは、手話通訳の経験が豊富で、ボランティア活動の経験も豊富である。旭さんは、手話通訳の経験が豊富で、ボランティア活動の経験も豊富である。

ボランティア活動の軌跡

ある人が道で、先行人に声を掛けられた。返事がない。折角人が話しているのに、なぜかケンカになった。声を掛けられた人が聴力障害者であることが、わかった。聴力障害者であることが、わかった。聴力障害者であることが、わかった。

ある人が道で、先行人に声を掛けられた。返事がない。折角人が話しているのに、なぜかケンカになった。声を掛けられた人が聴力障害者であることが、わかった。聴力障害者であることが、わかった。聴力障害者であることが、わかった。

侵害問題や組織力の弱さ聴力障害者同士の連絡網の出来にくさなどが壁となって普及が遅れているのは否めない。このあたりにも、ボランティアとしてしなければならぬことがあるのでは...と旭さんは言う。この問題はボランティア活動の軌跡の域の広さと痛切に考えさせられた。それに加えて、松原さんの言葉にあった「ニーズの持つって行き先は」大島さんが代弁された「技術をマスターしてボランティアとして活動したいが障害者としての関り先は」この二つは、ごくごく基本的な問題も考えさせられた。

の 送 放

SALON

放送日時： 昭和61年11月9日(日) AM10:30-15:00
放送場所： 大塚の聴覚障害者センター
放送内容： 聴覚障害者の生活と文化、聴覚障害者の生活と文化、聴覚障害者の生活と文化

編集後記

●例会後、恒例のミニミニ手話教室。九月は加納みすじ先生の指導であつた。お元気ですか? ●九月の例会で二四六二円のカンパ。有難うございました。●十月十八日「障害者が語る地域社会」をテーマに出会います。

昭和六十一年九月二日、十七人のメンバーが出会った。そこで、自己紹介をかねた参加者全員の手言葉(要旨)を掲げよう。